

平成 30 年度 微生物学教科担当教員会議 議事録（日本薬学会第 139 年会、千葉）

日時：平成 31 年 3 月 21 日（木）12:15～13:15

場所：幕張メッセ国際会議場 3 階 301A（N 会場）

出席者：全国大学薬学部において微生物学教育に携わる教員 67 名

配付資料

1. 平成 30 年度微生物学教科担当教員会議議題
2. 講演資料「薬学臨床教育の学習効果を高めるために必要な基礎教育のありかた～代表的な疾患「感染症」を例に～」(資料 1)
3. 第 31 回微生物シンポジウムポスター（資料 2）
4. コアカリに関するアンケート 回答まとめ（資料 3）
5. 担当者微生物教員会議と環境衛生部会合同主催シンポジウムの御案内（資料 4）

今年度の事務局と司会を務める早川洋一（東京理科大学）の挨拶をもって、定刻の 12 時 15 分に開会した。引き続き、世話人代表の黒田照夫 先生（広島大学）から講師の紹介があり、小澤孝一郎 先生（広島大学）の講演が行われた。

講演

演題：薬学臨床教育の学習効果を高めるために必要な基礎教育のありかた
～代表的な疾患「感染症」を例に～

講師：小澤孝一郎 先生（広島大学大学院医歯薬保健学研究科・教授）

医療に関わる様々な教育における微生物学の重要性について解説を賜り、具体例を交えて有効な微生物学教育の手法をご紹介いただいた。（資料 1）

議事

1. 平成 31 年度微生物学教科担当教員会議事務局について 服部明 先生（京都大学）

平成 31 年度（2019 年度）の事務局は日本薬学会第 140 年会を開催する京都大学の服部明 先生が担当される旨の報告があった。

2. 教科担当教員中央会議について 黒田照夫 先生（広島大学）

教科担当教員中央会議は今年から 4 月開催になった旨の報告があり、その内容は次年度の微生物学教科担当教員会議で報告することが確認された。

3. 微生物シンポジウムについて 河村好章 先生（愛知学院大学）

微生物学教科担当教員会議には多くの先生方が集まるが、その中で微生物シンポジウムに参加する先生はあまり多くないので、分野を問わず色々な知識を集めて切磋琢磨できるような会としてさらに発展していきたいとの展望が述べられた。

平田隆弘 先生（城西国際大学）より、平成 30 年度 第 30 回微生物シンポジウムについて開催報告があった。本シンポジウムは、平成 30 年 8 月 27、28 日に、城西国際大学紀尾井町キャンパスにて開催された。70 名の参加者を迎え、特別講演 2 題、シンポジウム 5 題、一般演題 23 題の発表があり、盛況のうち終了した。昨年より若い学生が発表できる機会としてポスター発表を設けたが、その試みは成功したと感じているとのお話があった。

小田真隆 先生（京都薬科大学）より、2019年度 第31回微生物シンポジウムの案内があった。本シンポジウムは2019年8月28、29日に、京都薬科大学にて開催し、堀口安彦先生（大阪大学）の特別講演に加えて3題のミニシンポジウムを予定している。また、若手研究者の活性化を図って、5分間のショートトークを導入する。「開け！新たな感染制御の扉」とタイトルを付けているが、微生物に関連する内容であれば何でもよいので、是非とも参加してほしいとのお願いがあった。また、学部生1名、大学院生1名に若手奨励賞を授与したいと考えている。若手奨励演題に関しては、事前審査もあるので、希望者は7月31日までに要旨とポスターのPDFファイルを送ってほしい旨のお願いがなされた。詳細は4月以降ホームページで紹介するとの案内があった。（資料2）

河村好章 先生（愛知学院大学）より、2020年度 第32回微生物シンポジウムは、岡田信彦 先生（北里大学）の担当で北里大学薬学部白金キャンパスにて開催されることが紹介された。

4. 教育に関して 川崎清史 先生（同志社女子大学）

今年度行ったコアカリに関するアンケートについて、資料に基づいて説明があった。（資料3）概ねコアカリの内容は適切であるが、いくつか指摘事項もあったので、引き続き検討していく旨が報告された。

5. 研究に関して 久下周佐 先生（東北医科薬科大学）

今回の薬学会大会で開催されるシンポジウム「感染症の現状と対策－薬学領域が果たす役割」について紹介があり、参加のお願いがなされた。（資料4）

6. 共用試験に関して 野口雅久 先生（東京薬科大学）

今年度より新コアカリに基づくCBTが実施されるため、プール問題が不足している旨の報告があった。これに伴って問題作成の依頼があり、その際、微生物学分野に対応するSBOに入るかどうかをよく確認するようとのお願いがなされた。

9. その他

薬学教育協議会の本間浩 先生（北里大学）より、モデル・コアカリキュラムに関する議論活性化の依頼があった。文科省では、医療分野の横断的視野に基づくコアカリ作成に向けた活動を開始しており、今回のコアカリに関するアンケートのような取り組みを評価するとともに、コアカリ改訂に向けて、コアカリの問題点や改善点についての議論を継続していくことが求められた。

世話人代表の黒田照夫 先生より、昨今の会場費高騰を鑑み、会則に規定されている参加費200円を柔軟に運用していく方策について今後協議していきたい旨の提案があり、拍手をもって承認された。

13時10分、会議参加への謝辞をもって閉会した。

以上

議事録作成
早川洋一